

新幹線地本申4号 新型コロナウイルスに関する申し入れ（その3）団体交渉報告①

2020年12月24日、表題について団体交渉を実施しました。主な議論は以下の通りです。

第1項 新型コロナウイルス感染症に対し、新幹線統括本部として現状の認識と今後の展望について明らかにすること。

回答：新型コロナウイルス感染症の今後の感染状況については依然不透明な状況である。引き続き、感染状況等を踏まえ判断していくこととなる。

組合 今日（2020年12月24日）現在で感染の第三波が来ていて東京では800人、全国では3000人を超える新規陽性者が確認されている。そのような状況を踏まえて、現在の統括本部としての認識は。

会社 今現在でもコロナウイルスの感染が拡大している。感染が拡大し始めた春先から現在においても当社の事業運営が支障なく進められていることに関して言えば、**社員の皆さんの公私にわたる感染予防・防止への取り組みが実を結んでいると思う。列車の運行、駅、メンテナンスに携わる社員の皆さんに改めて感謝を申し上げたい。日々の情勢は変わっていくが、感染拡大防止の面での取り組みは大きく変わるわけではないので、引き続き感染拡大防止の取り組みを愚直に進めていくことを社員に皆さんにはお願いするし、我々としても取り組んでいくという認識である。**

組合 第三波を受けて緊急事態宣言が再度出されるのではないかと話にもなっているが、再度発出された場合の対処はどうか。

会社 緊急事態宣言とはいっても、その内容がどれほどのものになるのかで変わってくる。移動の手段として新幹線は残さなければならないし、前は計画止まりだったが減便等の検討も必要になってくるかと思う。そのうえで、密にならないように…と、**実際に情勢を踏まえてみないと判断が難しい。国からの要請等もあると思うので、それらを踏まえての判断することになる。**

組合 感染防止対策に対して、例えば以前にフェイスシールドを導入したが、その後現場での使用実績の有無等を含めての振り返りを行っているのか。

会社 振り返りの言う点は必要だと思うが、現時点で効果があるかどうかの分析というのは、我々は専門家ではないので現在進行形な部分もある。**できるものはやっという視点で導入している。**

組合 感染防止対策については現場でも様々な意見が出されていて、それらの情報を基にして現場で物品を購入している。そういったノウハウがきちんと共有されるような体制になっているのか。**今後も必要な感染防止対策を行うにあたって、現場のニーズがきちんと反映されるようなものにしていただきたい。**

組合 9月に発表した変革のスピードアップのなかにも、ウィズコロナの点でこの間の感染防止対策を継続すると書かれていた。現時点で、ワクチン接種までの間にこの方針の変更はないという捉えでいいか。

会社 会社としては、引き続き安全な輸送を提供するために必要なことはやるということだ。

組合 新幹線を使った荷役輸送や移動オフィスについての動向は。

会社 観光需要というのは反動性がある一方、ビジネス利用に関しては従来のように戻らないだろうとみている。**新たな働き方に応じた施策として移動オフィスなどについても取り組んでいって、落ち込んだ収入を他の場面で確保することを目指していきたいと考えている。**物流についても大量輸送というよりは、新幹線を使うことでの速達性と定時性を求める需要を掘り起こしながら、少しでも収入の確保を目指していく考えである。

その②に続く